

参加
無料

要事前申込

スマート農業セミナー

-モノづくりのノウハウを農業に生かす-

テーマ 「スマート農業で挑む～稼げる農業」

*IT化による人手不足の解消、高度な工程管理・品質管理・技術統合・システム化といった、これまでわが国製造業が得意としていたノウハウを農業分野へ応用していただくことを目標に、「持続可能な農業」、「マーケットから考える稼げる農業」、「若者を惹きつける農業」など新たなビジネスモデルの確立につながる「スマート農業」について考えるセミナーを開催します。

* コーディネーター

弓場 秋信 氏

(公社)鹿児島県工業倶楽部副会長、
弓場貿易(株)代表取締役



* パネラー 3名



宮原 隆和 氏

((株)エルム代表取締役)

・革新的な技術で気候変動などこれまでの農業の限界を乗り越える「コンテナ型植物工場」など工業と農業の新たな連携についてお話しできます。



大山 康成 氏

(鹿児島青果(株)代表取締役社長)

・「稼げる農業」には消費者が求める戦略的な作物の選択が重要、消費者が求める作物はどう変わってきているのかについてコロナ後も含めお話しできます。



渡部 由香 氏

(鹿児島大学農学部食料生命科学科准教授)

・技術の再現性が高く、スマート農業のひとつとして、最も汎用性のある技術の「水耕栽培」の最新の取組と水耕栽培に必要な設備についてもお話しできます。

日時：令和2年7月30日(木) 15:00~17:00

場所：かごしま県民交流センター 4階 大研修室4

(鹿児島市山下町14番50号 TEL 099-221-6600)

※定員40名

(先着順)

問合せ先

(公社)鹿児島県工業倶楽部

鹿児島市名山町9番1号

TEL: 099-225-8012 FAX: 099-225-8020

Mail: info@ikic.or.jp

※お申し込みの際は、お名前とご連絡先をご記入

のうえ、FAXまたはメールで **7/22(火)**

までにご回答ください。

氏名	所属	連絡先(連絡がつく電話番号をご記入ください。)	懇親会の参加(○×をご記入ください)

(コーディネーター、パネラーについて)

弓場秋信氏(コーディネーター)

(公社)鹿児島県工業倶楽部の「工農連携～市場に学ぶ～研究会」の代表。同研究会はスマート農業先進国であるオランダに学び、製造業や企業として野菜工場等のスマート農業の普及・活用に貢献していこうという弓場氏の提案で平成28年度に設立された。

令和元年には実際にオランダを会員22名で視察、オランダ視察を踏まえて、令和2年1月の工業倶楽部新年大会でのパネルディスカッション「スマート農業による産業振興、地域振興の可能性」でもコーディネーターを務めた。「技術だけでなく、マーケットから考えるスマート農業の展開」など稼げる農業を実現するための本県農業のスマート化の支援への取り組みを進めようとしている。

宮原隆和氏(パネラー)

現在スマート農業に全力投球中。「工業と第一次産業との連携」をテーマに、同氏が手掛ける植物工場は、苗や葉野菜の生育に適した光(LED)、気温、湿度、二酸化炭素、水と肥料等を育てる植物名を選ぶだけで自動制御、種蒔きから収穫まで自動化され、国内外の競合製品に比べ2倍の生産性と大幅な省力化を実現している。

高断熱の冷凍コンテナ内で、都市部から寒冷地、熱帯までどんな場所でも植物を安定して生産できることを生かして国内外で事業を展開中。鹿児島大学農学部との共同研究では、有効な自動化が難しい本県の基幹作物である「さつまいも」の植え付けにも挑戦している。環境に影響されず植物の形態を自由にコントロールできる植物工場と、新たに開発した接木ロボット等を複合し、IT技術を生かして農業にイノベーションを起そうとしている。

大山康成氏(パネラー)

「稼げる農業」を実現するには、生産者は消費者が求めている農産物は何かというマーケティングに基づいた取組が重要。鹿児島青果(株)代表取締役社長として、品質・機能の差別化と、確実に売り切るための戦略的な農産物の選択などに生産者とともに取り組んできた。コロナ感染症拡大でバイキングでの料理提供は姿を消すなど、一般消費者に加え、BtoBで求められる農産物にも変化が起きている。これらの変化に的確に対応し、マーケットの立場から、今後展開すべき「スマート農業」に必要な視点について示唆をいただく。

渡部由香氏(パネラー)

スマート農業でのコストカットを実現する礫水耕栽培による、カリウム低減作物の栽培方法を研究、実用化を目指している。これはリサイクル水(下水処理場で処理され河川に放流できる環境基準まで浄化した水)のみを利用し、水耕栽培液であるリサイクル水に新たに肥料を添加せず、電力もほとんど使用する必要のない環境負荷低減型農法である。現在、栽培可能な品目の拡充とカリウム低減レベルの検証、カリウム低減の他に付加可能な機能性成分の調査を行っている。カリウム低減作物は、腎機能に不安のある方や療食調理に関わる方を主な購買層として想定しているが、機能性成分を明らかにすることで、一般の消費者にアピールできる作物にすることも今後の目標としている。